

令和3年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

算数

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
3年	○知識・技能の到達度（A評価72%）と比較して、思考・判断・表現の到達度（A評価18%）は上位層が少ない。	○思考の過程を、言葉、図、数、式、表、グラフなどいくつかの方法で表現させ、相互を関連付けて説明できるようにする。	○問いに対して、算数的表現を用いて論理的に自分の考えを発表できる子が増えている。 ○主体的に取り組めずにいた低位の児童も粘り強く学習に取り組んでいる。
4年	○知識・技能の上位層が比較的少ない（A評価24%）。 ○思考・判断・表現の上位層が比較的多い（A評価37%）が、下位層も多い（C評価18%）。	○意図的・計画的な学習計画を立て、計算技能等を十分に習熟できるようにする。 ○根拠をもって筋道立てて自分の考えを表現できるように、既習の振り返りを適切に行いながら授業を展開する。	○児童の算数に対する意欲が、全体的に高かった。 ○自ら難問を作って発表し、みんなで考えを深めるなどの活動を好む児童が多いので、授業展開を工夫したい。
5年	○知識・技能、思考・判断・表現ともに、下位層の割合が比較的大きい（知識・技能9%、思考・判断・表現21%）。	○授業の中で既習の振り返りを適切に行うとともに、思考の過程を大切にできるように価値付けながら丁寧に問題に取り組ませ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	○自分の意見を積極的に述べる児童が固定している。6学年では多くの児童が考えを述べられるように育ててほしい。
6年	○思考・判断・表現の上位層の割合が比較的小さい（16%）。	○児童の気付きや考えを大切にしながら、本時の目標に迫るような焦点化した発問をする。また、できるだけ発表・発言の機会を多く設定し、	○学年を通して積極的に学習に取り組む児童が非常に多い。 ○より難しい問題に挑戦する児童

		<p>集団で考えを練り上げることができるようにする。</p>	<p>が多く、既習事項を生かした発展的な活動においても計画的に進め、児童主体で行うことができる。</p> <p>○低位の児童では、応援したり、教え合う雰囲気がある。</p>
--	--	--------------------------------	--